

このシナリオのポイント

- ✧ ソロシナリオだが、探索者が **KP** に無理を言わない限りロストしない設計
- ✧ ほぼ一本道シナリオ、戦闘なしで流されてもエンドに行ける探索オンリー
- ✧ **PL** だけでなく **KP** もシナリオで **RP** にキャッチアップできる
- ✧ 情報が出揃わないままエンドに向かう、不完全さを楽しむ **COC**

このシナリオで覚えておきたいポイント

- ✓ 先輩は2人存在するが、重複はしない。(※先輩(仮)は先輩(本物)の車両まで生きられない)
- ✓ 情報が出揃わなくてもゴールしちゃっていいさ、と思える勇気(※別名：反省会推奨)
- ✓ 先輩は大抵、ビビりで役に立たない(※別名：ヒーラー兼肉盾)

<前提>

クトゥルフ現代

後輩(PC)：新規作成を推奨。(この後、このシリーズを継続して行うのなら **POW** 高めがオススメ)

推奨技能…目星・聞き耳

準推奨……心理学(PLの選択を増やす意味で)

推奨職業は特になし、しかし大学生と言った先輩の家に気軽に遊びにいけるような職業だと導入が楽かもしれません。(テスト時は、学生・探偵・社会人(フリーの職業)が多かったです)

以下は、ざっくりとした設定。

先輩(NPC)：医学生または精神科医師(現在は日本の大学院に通っている)設定。ヒーラー兼肉盾。

性別は探索者に決めさせてください。(先輩→性別が男の場合、恋人→彼女・車掌さん→彼、といった具合で決まります。※一例のため、**KP** 判断で変更しても構いません)

基本的な性格はお金持ちの三番目で、料理がとにかく出来ない。テストの際は、後輩思いのウザったい先輩イメージで回しましたが、**PC** さんとうまく交流できればどんな感じでも構いません。ストーリー的に着道楽という設定を付けると、疑心暗鬼が起こって **KP** が楽しいかもしれません。

小ネタ) 最近まで留学をしていた。先輩の字はヘタではないものの筆記体のような癖字。

先輩の恋人：性別は先輩と逆。基本的に無害であろうと努めている。

小ネタ) 字が上手く書けないことが悩み。喋るのも得意ではないが、真似は上手。

車掌さん：マジメすぎて一直線に恋に生きる人。あの人を泣かせた奴はどいつだこらあああ！！

小ネタ) 幼い頃から習っていた書道のおかげで **THE** 真面目といった字になった。

ゴーストたち：元脳缶だったが、門が開いたことやクトゥルフ的なプラズマ現象のおかげであの世とこの世の辺りをフラフラしている。このシリーズでは神隠しにあった人ともいえる。

### <導入>

留学から帰ってきた先輩から久しぶりに会わないか、と誘われる。先輩とご飯をたべながら近況報告をしていると最近、恋人と暮らすために引っ越したという話になる。締めに、近いうちにメールするから遊びに来てよ、と誘ってくる。(先輩後輩の関係を作っておくと話が進めやすいと思います。)

しかし三週間後、時折入っていた先輩からのメールが『一通りは片付かなかつたけれど、とりあえず今度遊びにきなよ〜』と引っ越し先の住所が書かれたメールを最後に途絶える。後輩に構ってほしいのか、結構な頻度で入っていたメールがパッタリと止んだことに心配していた探索者の元に手紙が届く。中には、『助けてくれ』と書かれたメモと<自宅>とタグの付いたカギが入っていた。

探索者は封筒の裏に書かれていた先輩のマンションへ向かう。

### <前提>

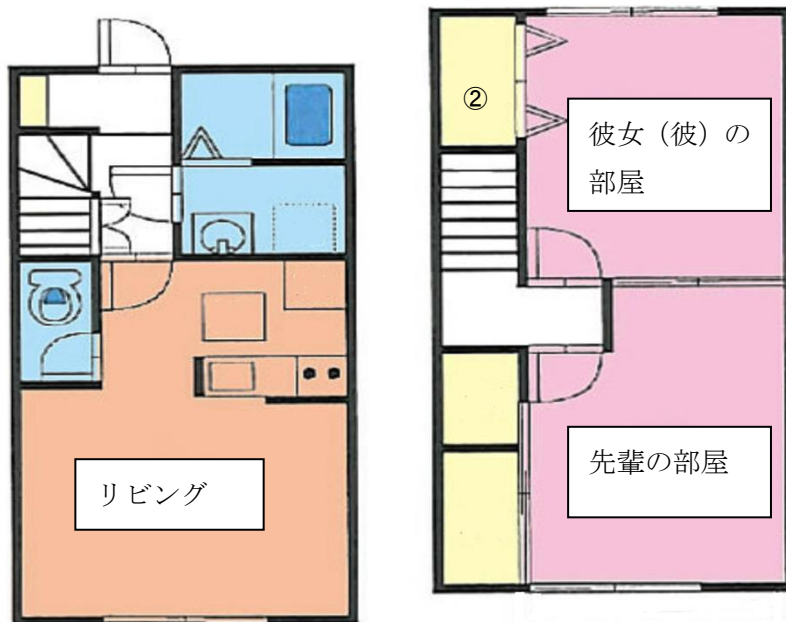
◇ この部分は、場面の描写になります。KPが読み上げてもOKです。

①・②・③…といった数字は、探索によって順番に出していってもらえたら嬉しい情報です。ですが、探索者の状況などでバンバン渡して下さい。

※の部分はチラ裏なので、うっかり喋らないようにしてください。

先輩の恋人表記は、彼女(彼)または恋人と表記しています。

### ●304号室(最終ページに簡略地図あり)



◇ 小高い丘に建てられた新築のファミリー向けマンション。ただリフォームされているのか土足で上がる欧米式。 → <アイデア>かPLとの関係次第で、先輩が選ぶに足る庶民的な地域・物件を選んだのでは、と思う。

◇ 基本的に引っ越し一週間〜二週間と、片づけながら生活していたとわかる。先輩の荷物が圧倒的に多いが、彼女(彼)の荷物も存在するが、最低限の洋服などしかなく、荷物が少ない。

☆ リビング

- ① 台所には蓋を開けた状態のカップめんと、水がたっぷりと満たされた状態のケルトの水を発見できる。冷蔵庫や郵便受けを見るなら、一週間ほど放置されている。食材は一部、使用されている。
- ② 床下収納を触ろうとすると、静電気のような痛みが走る。＜聞き耳＞成功で中から『ぬちゃり・・・』といった音が聞こえる。開けても何もない。

☆ 部屋から出ようとする or 二階に上がると、どこからか先輩の声が聞こえてくる。

＜聞き耳＞ → 先輩の声だが、どうやら電車の中のようにかき消されて聞こえない。

→ もっとよく聞こうとすると、突然、**ガッシャァン！！！！**といったつんざく様な破壊音が聞こえる。＜アイデアまたはリアルアイデア成功＞電車が何かにぶつかり、破壊された音ではないか。と感じる＜SAN チェック 0/1＞

☆ 先輩の部屋（目星などで出る情報）

開けた瞬間、荷物の多い部屋だなと感じる。センスの良い家具が、広い室内に置かれているものの引っ越し後、片づけながら生活をしていたようでまだ、段ボールなどが残っている。目につくのは机・クローゼット・洋服ダンスで、どれも日常的に使用していたような生活感が残っている。ほかには論文を作成している途中だったのか、PCがスリープモードになっており、辺りに原稿用紙が散らばっているようだ。

- ① 走り書きのメモが出てくる『最近、部屋の中で不可解な音が聞こえてくる。電車の音のような、電子音のような、水音のような…もしかして、前の人が問題ありの部屋を借りちゃったのかな。怖い』
- ② クローゼットの中に、『地下鉄の時刻表』や『地下鉄の関係者、おそらく車掌さんが書いたであろう業務内容のメモ』を見つける。メモの内容は、几帳面な字で「最近仕事はさらに忙しくなった、最近入った新人は教えがいはあるものの骨が折れる。(略) ホームで気になる人を見つけた。どうやら線路にハンカチを落としてしまったようだが、外人のようで意思疎通が難しい。ハンカチを返しそびれてしまったが明日は会えるだろうか」といった内容。
- ③ 洋服ダンスに吊るされたスーツに交じって、ブランドのない(先輩が着ないような)スーツが隅の方に畳まれていることに気づく。前の住人の忘れ物のようだ。
- ④ 論文の内容は、『シナプスの伝導による学習能力の向上』といった内容。ほかにも関係する書籍が置いてあるようだが、その中に混じって幼児向けの『あいうえお』練習帳が出てくる。
- ⑤ PCなどもあるが、中身は普通。ただ、友人とのメールに『恋人が突然、別れを切り出された。次の日にはいなくなってしまった。失踪届を出したいのだが、今思えば彼女の事を詳しく知らない』といったことがわかる。彼女との出会いはナンパだった模様。

#### ◇ 彼女（彼）の部屋

開けた瞬間、荷物の少ない部屋だと感じる。そのせいか殺風景にも感じられるだろう。部屋の中にはドレッサー、机、数少ないものの段ボールが置いてある。

- ① ドレッサーには先輩から送られたであろう化粧品、ケア用品。＜目星＞で、ヘアオイルなどはあるものの、髪をとかしたりする櫛がない事に気づく。
- ② 机の中には（各部屋で回収そびれた）資料、または小学一年生向けの『あいうえお練習帳』がある。記入した後はあるが、ミミズがのたくったような文字とは言えない字の横に、先輩の文字で赤ペンがいてある。
- ③ 押入れを開けると、マンホールのふたを外した状態の、下へ落ちるように続く穴が当たり前のように口を開けて待っていた。人が一人、余裕で落ちることが出来る通路である。底の見えない暗闇だが、どうやら真っ直ぐ下に落ちていくようだ※ここで物を投げ入れたら、KPの判断で消してもOK

#### ◇ ポイント

ここで、探索者に穴に入ってもらいます。なかなか入らなかったら、＜幸運＞を振ってもらい成功／失敗関係なく唐突に背中を押されてまっさかさまに落ちていく、という描写などでつなげてください。幸運成功で、『あなたがさっきまで立っていた場所から羽音が聞こえた、気がする』といった追われている感を匂わせてください。

#### 小話

→ 押入れの中の穴は、ミミズが用意した生贄（脳缶）を研究所に運ぶための『門』のような場所。彼女（彼）は相手（今回は先輩）をここに連れてきていた、運び屋のような存在でした。

→ 地下収納には、料理をしない先輩が触らないようにスライム上の調味料を隠しています。『ぬちゃり』という音は、見つからないように掛けられていた障壁を、探索者が触ったことで消えた音。彼女（彼）の手料理には、食べた相手を操るために彼女の体の一部（ヒナ）が入っています。（先輩は引っ越してから、何度か手料理を口にしています。）

→ 先輩の身辺調査をするなら、『最近、家族と不仲であったこと。それにより今回の同棲は駆け落ちのような形だったこと』と『恋人とは上手くいっていたようで、他の友人に聞いてもお互い幸せそうだった』との話にしてください。恋人の容姿は、可もなく不可もなくといった感じだが生活能力のない先輩に対して歯に着せぬ物言いで指摘していた、日本語がへたなことを差し引いても言葉選びがへたな印象を受けるが先輩も恋人も楽しそうに会話していたという話で考えています。

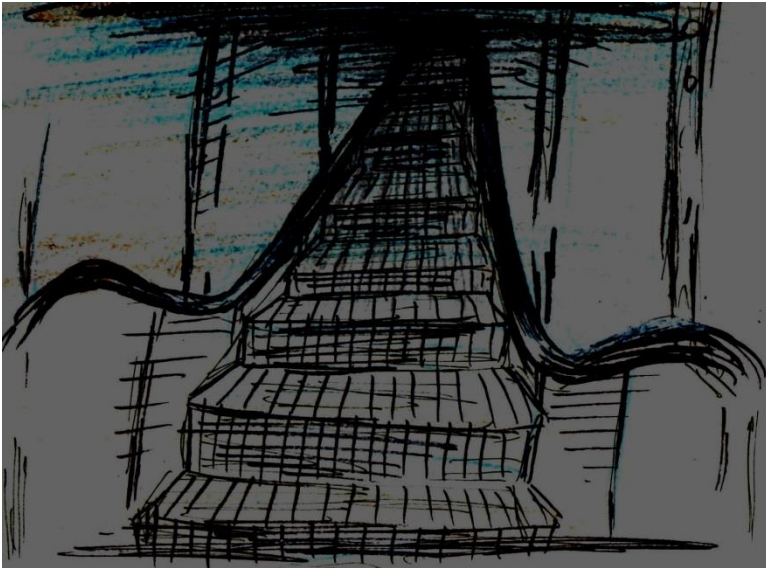
→ 探索者に手紙と鍵を送ったのは、車掌さんの姿をした彼女（彼）。『助けてくれ』の字は車掌さんのノートを真似している。

→ 穴に入るのをためらっていると部屋に残るゴーストが、彼女（彼）を手伝うために探索者の背中を押してきます。ここで幸運など、探索者が申請しても穴の中に落としてください。（ダメージ判定はKP判断で入れてください）

ファンブルなどした際は、すぐ近くにミミズが来ていることに羽音が聞こえた、などで不安を与えてください。

●下に続くエスカレーター

- ◇ いつも間に気を失っていたのか、探索者が目を覚ますとエスカレーターに座り込んでいたようだ。  
(SAN チェック 1/1D3) 立ち上がると、上も下も底の見えない途中のようだ。体の動作を止めると、  
どうやら下へ動いていると気づく。周りはコンクリートで出来た壁が頭上高くまであり、閉塞感が  
強い。うすら寒い蛍光灯の光が上から照らされている。



- ◇ 持ってきた荷物は、手元にあるようだ。電子機器は使えない（電源が入らない）※幸運で壊れていてもよい。
- ・上にあがっても延々と上っていく（終わりは見えない）<SAN チェック 0/1>。ただ、<聞き耳成功>でノイズ交じりの羽音のような音が聞こえる。失敗で笑い声が聞こえる
  - ・下にさがっていくと、延々とおりていく<SAN チェック 0/1>。途中、<聞き耳成功>で電車の音が聞こえる。失敗ではなんか悲鳴でも聞こえてください。
- 下がっていく場合は途中、幸運。失敗でも成功でも不意に背中を押されて足を踏み外す。そのまま思いっきり下に落ちる<失敗のみダメージ 1>。投げ出された体は、土下座をするような姿でいつのまにか地面に頭を伏していたようだ。
- ※エレベーターを壊す、またはファングルの時は何かに背中を押されて足を踏み外す。5m位下に落ちる<ダメージ 1D3>が地面に落ちる。視線を上げると誰かの足が見える。

小話

- ミ=ゴの研究所に行くための、異界の入り口。ここを担当しているゴーストはちょっと S っ気があるのか探索者の扱いが乱暴ですが、下に探索者が『降りる』または『落ちた』と思うことが下（門の先）にたどり着くキッカケになるため頑張っています。
- 上にはミ=ゴがいるため、ゴーストたちは何が何でも上には向かわせないうつもりです。時折、電車の音や先輩（のような）声を聞かせて、下に進まない探索者は弄んでください。もとは脳缶にされた人の残留体（プラズマ体）。基本的に彼女/彼の元恋人たちで応援し隊しています。

●地下鉄のホーム入口

◇ 視線を上げた先、スーツ姿の先輩だった。＜アイデアなど成功＞で、周囲に視線を鋭く向けているように見える。着ているスーツは先輩が買わなそうな、低価格の品物に見える。声をかける、または触るなどをすると先輩は驚いたような顔をする。『どうしてこんなところにいるんだよ』と言ってくる。

Q 先輩に来いと言われた（手紙を見て、きた。など）

A え、マジで？なにそれ怖い。自分は送っていない。

Q ここはどこだ or なにをしている

A 自分もわからない。気づいたらあそこ（5mくらい奥）にいて、辺りを見ていたら痛そうな音がしてここにきた。むしろ、後輩はケガとかしていないか？大丈夫か？

Q 彼女関係の事

A かなしい…事件だったね… ※彼女本人のため、はぐらかす

※基本的に友好的。なにか技能を振れと言われたら基本 50%の KP 判断。

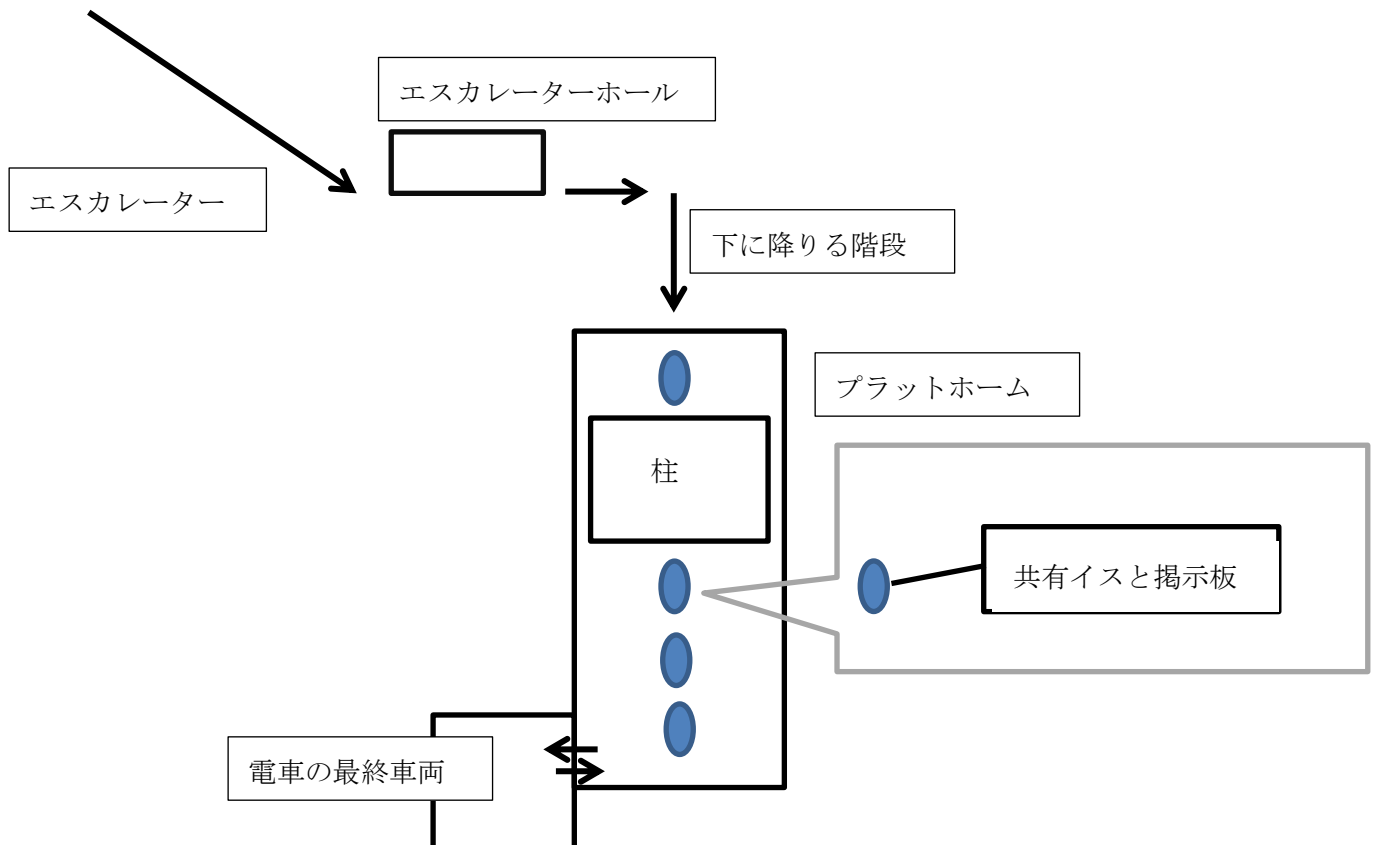
※持ち物はなし。スーツはよくある形で、気づいたら着ていたとのこと。（先輩は着道楽との設定だと、なんで、こんなブランドもないスーツを着ているんだ…と、探索者が不安がってくれるかもしれません。）

※先輩である証拠、と言われても困ったなーという顔をする。先輩自身の記憶は持っていない為、恋人が知っている範囲での先輩のマネをしている。

先輩に対して目星で、指先に乾いた赤色が見える。理由を聞くとケガをした、と言うが応急処置などは拒む。追求すると、もう治ったからと指先を見せてくる。（指先に付いていた血が乾いた状態）

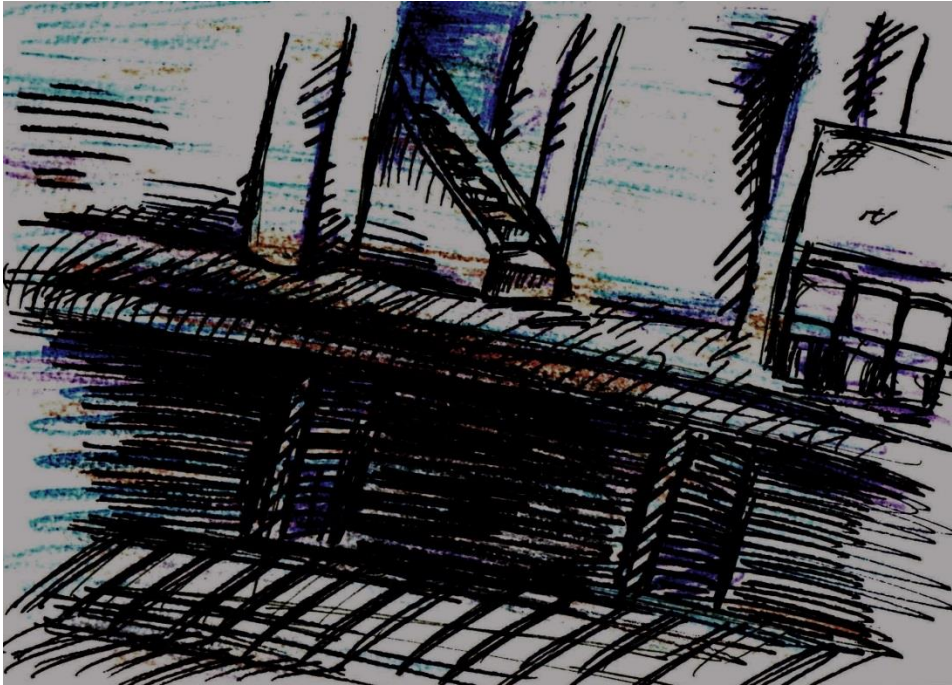
●エスカレーターホール先の

20mもしないうちに行き止まりがあり、すぐ横に階段が下に続いている。どうやらボンヤリとだが、明りが見えている。下まで降りると地下鉄のプラットホームに繋がります。



## ●地下鉄プラットフォーム

辺りは殺風景な地下鉄のホームに見える。路線は一本しかなく、障害物などないのでホーム下に降りることもできる。他には、よくある共有イスが等間隔に設置されており、掲示板はあるが手前のものには何も書かれていないようだ。電光掲示板や自販機など、他の設置物は見当たらない。奥には大きな柱があり、視線が遮られているが両脇からさらに進めるようだ。



◇ 周囲に<目星>で、イスの隙間に挟まった走り書きのメモを見つける。

『気が付いたらここにいた。なぜか見慣れた電車が停まっている。そして、何よりもあの人の声が聞こえてくる。自分の生きがいは電車だけだと思っていた、あの人が変えてくれた。後悔はしない。』  
という内容。<アイデア>で先輩の文字でない事がわかる。一緒にいる先輩に、文字を書いてくれと言っても適当な理由をつけて嫌がる。※文字が書けない

◇ 降りてきた階段側の線路奥に行く。

→線路を歩いていくと、トンネルが現れる。しかしトンネルの入り口は自販機や電光掲示板、その他のガレキなどで塞がれている。奥に進むことは難しそうだ。

## 小話

→ この先輩は、彼女（彼）が化けている姿です。目的は、探索者を先輩（本物）の場所まで無事に連れていく事。その為に、自分なりの先輩の真似をしながら探索者の手助けをします。

→ 先輩（仮）は『怖いから一緒に行こう。置いてかないで〜』と、半泣きになりながら基本的に探索者の後をついていきます。KPは精いっぱいのへたれを演じてください。

→ 心理学をされても、『怖い』や『一緒に来てほしい』という単語は本心。『何か隠している』といった単語には探索者に対して嘘を吐くことが申し訳ないという気持ちを感じた、など答えてください。

- ◇ 柱奥に進んでいくと同じ風景が続く、が、不意に先輩が探索者の手を引っ張り『なんか焦げ臭いね』とおびえた声をあげる。再び、前を向く（or瞬きをした瞬間）に目の前に電車の最後尾が見える。
  - 最後尾のみ飛び出している。車両の上のぼることも可能だが、不意に体を押されて落下する。
  - 先輩は上らない。『怖いし』とかいって嫌がらせてください。

#### 小話

→ 焦げ臭い、というのは呪文により彼女の体が消えていく匂いです。彼女にしかわかりません。電車の出現に気づいてもらうため、また時間がない事を匂わせてください。

#### ●車両内

扉が空いているのは最後尾の一番、端。運転席は真っ黒に塗りつぶされているように見えないし開かない。車内に入ると人影は見えず静まり返っており、青白い電気が煌々と車内を照らしている。中刷り広告などは無く、代わりに奥に行くほど窓が真っ黒に塗りつぶされている。

#### ◇ 一車両目

目星をすると、奥の座席に女子中高生向けの可愛らしい雑誌が開いて伏せてある。内容は

『実は危険！？恋愛中毒注意♥』

サッカー部の先輩が気になる…同じクラスの…なんて、学校にはトキメキがいっぱい☆でも気を付けて！「恋は盲目」「恋は麻薬」という言葉があるのを知ってる？

女の子はもちろん、男の子も恋をすると常識や理性を失っちゃうかも…。

そんな恋の謎を科学的に紹介しちゃいます！

〇〇先生の証言：多くの方は、恋愛して夢中になると嬉しくて舞い上がり、相手のことを肯定的にみたり美化したりします。好きな人が出来ると、頭と心はその人でいっぱい…』といった内容。

※その他、ティーン向けの恋愛雑誌～大人の女性恋愛指南といった、恋愛に関する大衆紙が散らばっている。

→ これは彼女（彼）が恋愛について学んだ資料。彼女が現実世界に行くたびに、色々と資料（雑誌）を買ってきて勉強したらしく、たまに読み込んだ跡などが見られる。

#### 先輩の様子

先輩（仮）に雑誌について話を聞いたり、心理学をすると『なんか懐かしいよね、こういう時期もあった』といった恋バナ的な雰囲気になる。

➤ 次の車両への連絡扉の前になにかの紙切れが落ちている。切り抜きのようなものだ。

**切り抜き**『ドッペルゲンガーについて。ドイツ語:doppel（ドッペル）とは、二重、分身という意味である。以上の意味から、自分の姿を第三者が違うところで見ると、または自分で違う自分を見る現象のことである。自分から積極的に話したり、動いたりすることはしないようだが手を振られた、笑いかけられたという報告もある。』



#### ◇ 二車両目

車両内の雰囲気は、一車両目と同じ。ただ、奥に向かっていくように何枚かの本を破ったような紙が落ちている。何枚か拾ってみると、偉人がドッペルゲンガーに出会った時の話が掛かっているようだ。その中でもこんな内容が目につく。

**偉人の内容**『ゲーテ（1749～1832）はドイツの著名な作家、詩人、政治家で、文学界に多大な貢献をおこなった偉大な人物であった。様々な逸話には事欠かないが、中でも不思議な逸話がある。ある日、フリーデリケという女性と別れたショックで意気消沈し、彼は馬で帰る途中だった。向かいから、ゲーテは馬でこちらに来る男に出会った。ゲーテ曰く実際の目ではなく、心の目を見たというのだが、その男は着ている服は違えど、まさにゲーテ本人だったという。その人物はすぐに姿を消したが、ゲーテはその姿になぜか心が穏やかになって、このことはまもなく忘れてしまった。

8年後、ゲーテがその同じ道を今度は反対方向から馬を進めていたとき、数年前に会った自分の分身と同じ服装をしていることに気づいたという。また別のとき、ゲーテは友人のフリードリッヒが通りを歩いているのを見た。なぜか、友人はゲーテの服を着ていたという。不思議に思ったままゲーテが自宅に帰ると、フリードリッヒがゲーテが通りで見たのと同じ服を着てそこにいた。友人は急に雨が降ってきたので、ゲーテの服をかりて、自分の服を乾かしていたのだという。』

#### 先輩の様子

・読んだ内容を見て、ちょっと青ざめる。それから『俺（私）の頬、つねってくんない？怖い』とか言ってくる。つねると痛がる。ドッペルとか聞かれると否定する。

↑（心理学）※精いっぱい先輩の真似。

・ゲーテの内容については『怖いけど・・・辛い記憶がなくなるならいいのかもね』といったセリフが返ってくる。

↑（心理学）※自分が消えることで、先輩以降の被害者が出なくなることを再確認している。

#### ◇ 三車両目

車両内は、先ほどまでと雰囲気は異なり身近になった、という雰囲気を感じる。今までの無機質な雰囲気とは異なり座席やつり革などに使用感を見つけることができる。目星をしなくても車両の右側には『私、僕、俺、貴方』など様々な一人称で誰かと恋をした、幸せだというプラスな雰囲気の日記内容が表示されては消えていく。左側には逆に、『私、僕、俺、貴方』など様々な一人称の苦しい、辛い、助けたい、という誰かを助けたい、助かりたいといったマイナスの内容の支離死滅な内容の文章が浮かんで、消えていく。※彼女の部屋。ミ=ゴが脳缶の記憶から彼女（彼）に対する感情を取り出して、表示させる装置を作成した結果。

その他は、櫛と包帯のような布が落ちている。幸運や目星失敗で、吊革が人の手になっていたりするドッキリ。＜SAN0/1＞適時、追ってきているミ=ゴの羽音を聞かせても良いです。

次の車両へ進む、という宣言を受けたらイベントを起こす。先輩は後ろをついてきている。

→ 先輩の位置は前でもいいですが、この後のイベントでは探索者の逃げ場がなくなります。

次の車両へ行こうと扉を開けた瞬間、唐突に探索者の肩を強くつかんでくる。

**振り返る** → 先輩が、今まで見たこともない、なんと言い表せばいいのか、まさしく破顔した表情を向けてきている。口から、鼻から、目から、言い様も出来ない液体を出している。＜SAN チェック 1/1D3＞※ここまでで仲が深まっていた場合は 1D3+1

**振り返らない** → ヌメツとした感覚が、洋服越しにも関わらず伝わってくる。先ほどまで笑い合っていた相手から理不尽に与えられる、なにかに浸食されたような、湧き上がる絶望感と恐怖を感じた。＜SAN チェック 0/1＞

⇒共通イベント

振り返る・振り返らない、どの選択肢でも＜聞き耳+20＞で振ってもらおう。

口のような、口だったであろう部分からスライム状の液体を零しつつ、苦しげなうめき声交じりに聞こえてきます。聞き耳成功で『コ…コ、マデシカイケナ…イ。アトハ、ガンバッテ…』と言っているのがわかる。失敗でも『…ア…ガトウ…』と聞こえる。

小話

→ 先輩（仮）の返信するための MP、HP が無くなってしまった為、スライムの姿に戻り、また消滅した。スーツは燃えず、ただ焦げ臭い匂いが残る。

→ もし、ここまで先輩の HP や MP が減っていたらイベント前の地下鉄ホームや車両内の散策中にうまく歩けない、気分が悪そう、など探索者に告げてタイムリミットを匂わせてもいいかもしれません。ただ、ひたすら四車両目を目指す先輩（仮）の願いは四車両目にいる先輩（本物）を探索者に見つけてもらい、無事に連れて帰ってもらう事のみです。

#### ◇ 四車両目

奥の席に先輩が座っている、ただ目は開いていないようだ。振り返って先輩（仮）がいた場所をみるとまるで人が解けたようにスーツが床に固まっており、何か粘着性の液体がついている。探索者が触るなどの行動をする前にスーツごと溶けてなくなる。

奥の席に座っている先輩 → 部屋着のまま優先席と書かれた席に座っており、どうやら気を失っているようだ。頭から血を流しているが血の跡に拭われたような掠れた跡がある。本を読んでいたような姿で、開いたページは以下になる。

#### ○本の内容

どうやら芥川龍之介に関する本のように：『芥川は、ドッペルゲンガー（もう1人の自分）を見ていたらしい。雑誌の対談などでも、それについての話を何度もしている。芥川は、未発表で未完の小説を書いていた。タイトルは、『人を殺したかしら』と付けられ、内容は青年が人を殺す夢をみる。そして目を覚ますと、その事件は翌朝になると実際に起こっている。しかも夢で殺した被害者と、実際の殺人事件の被害者はとても良く似ている。しかも事件は、全て自分の近辺で起こっているときた。

青年は「もしかしたら、本当に自分が殺しているのかも」と、悩み苦しむようになっていく。そして次第に「もう1人の自分がいるのでは・・・」という思考が変わっていく。この物語はまるで、ドッペルゲンガーに悩んでいた芥川自身を題材にしたような小説である。

この小説には言い知れない恐ろしさがある。なぜなら芥川の死の前日の夜、連載していた小説の原稿を取りに、編集者が芥川家を訪れた。まだ出来あがっていないため、編集者は、芥川の後ろに座って待っていたという。そして彼は机の上に置いてある、書きかけの小説を見つける。それが『人を殺したかしら』であった。

「先生、新作ですか？ちょっと拝見してもよろしいですか？」彼が原稿に手を伸ばそうとした時、「それに触るな！！それは失敗作だ！！」と芥川はなぜか突然叫び声を上げ編集者が手にした原稿を取り上げ、赤ペンで自分の名前をグチャグチャに塗りつぶし、本文に大きな×印を殴り書きし、原稿の全てをビリビリに破いて廊下に捨ててしまったという。

芥川のあまりの気迫に驚いた編集者は、その日は帰る事にした。

翌日の朝、再び編集者が芥川家を訪ねると、多量の睡眠薬を飲み布団の上で死んでいる芥川がいた。そして、芥川が狂ったように赤ペンで塗りつぶし、破り捨てたはずの『人を殺したかしら』の原稿が、なぜか完全な形で机の上にキチンと置かれてあったという。』

赤でコメントが書いてある。『本物と偽物、どちらが居なくなったのか』

先輩はゆすぶられたりすると起きる。めっちゃ頭を抱えて、痛そうにしながら起きます。しかし何が起きたのか理解が追い付いていないらしく、頭を押さえつつ探索者と周囲を見る。本の事を聞くと、『え？なにこれ怖い』といいつつ探索者に押し付ける。※先輩は怖がりです。

いままでの事を話されると、『自分の頬、つねってくれない？怖い』と言ってくる。つねるとやっぱり痛がる。ドッペルとか聞かれると、『…いくら俺（私）がカッコいい（可愛い）からって二人はいらないうしょ？』と真っ青になっている。冗談めかしてても怖いとアピールしてください。

この時点で先輩は、彼女（彼）の事は忘れていて ※不定の狂気にはいつているため

次の車両（五車両目）に進み、先輩が連絡通路の扉を閉めた瞬間に羽音が聞こえてくる。

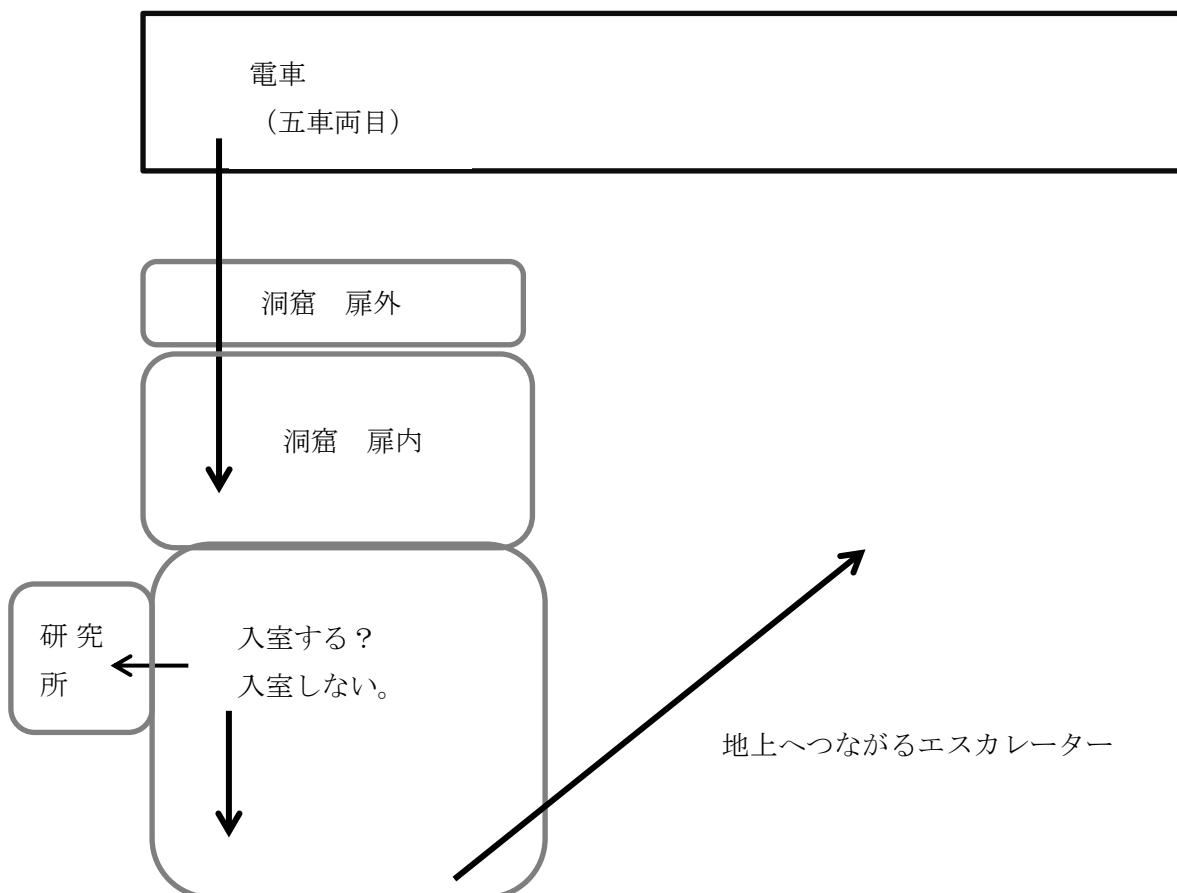
しかし、もう後ろに戻る扉は開かない。突然、振動が車内を揺らし車体が動き出したことに気づく。先輩は慌てふためいている。次へ向かう車両へいくなら、次第に真っ黒だった窓が晴れていき、運転席であろう場所にガラスの筒に入った脳みそが鎮座していることに気づく<SAN チェック 1/1D3>※すでに不定の狂気入りしている場合は調節ください。

<目星・アイデア>などでどうやら延ばされたコードから、その脳みそが運転していると気づく。窓ガラスの外は真っ黒だが、どこかのホームに入ると車内放送のようなノイズが響く。

『あとは上っていただけ。振り返らずに意志を汲んで、無事に連れて行ってくれ』

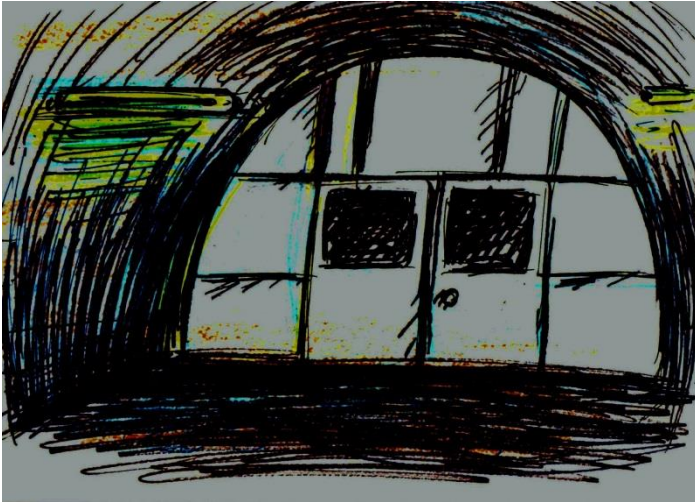
突如、脳みその入ったガラスの筒に入る。また今まで歩いてきた、背後の車両から、扉を破壊するような音が聞こえてくる。同じくして、電車が最後の力を振り絞るように外に繋がる車両の扉を開ける。

※エンディングまでの簡略図式



## ●研究所？

車両を出ると、洞窟のような半円型の通路に出る。だが雰囲気は作業現場のようで、光源によく分からない明かりのようなものが等間隔で設置されているようだ。簡素なプラスチック作りの扉を開けると、奥に進むことが出来る。



- ◇ 周辺に<目星>を行うと、見たことない文字が書かれている。雰囲気から読み取ると案内板のようだが理解できない。ここでモタモタするようだったら<聞き耳>などで、扉越しに羽音や破壊音が迫ってきていると伝える。
- ◇ 奥に進んでいくと、研究所のような場所に出る。目星など、扉が空いているかと探索者が聞いてきた場合、以下の事を伝える。

『どうやら手前の一室だけ、閉め忘れたように隙間が空いています。中に入れるようですが、入りますか？』尋ねる事。

→ **入室する**。手狭な部屋のかべ一面に、人が抱えるほどの大きさのガラス筒が隙間を埋め尽くすように並べてある。それは、全てに、例外なく、何かの液体で満たされており、同じように、人生の中で何度か目にしてきたであろう脳みそが浮かんでいる。それらはありなのだが、呼吸をするように時折、気泡を上げている。そして中央に、一際大きいガラスの筒が鎮座しており、人が余裕を持って入れるその筒の中には形容しがたい、何か、液体と混ざることなく浮かんでいる。<SANチェック 1/1D6>※先輩はすでに不定に入っていて発狂しないので、もし探索者が発狂したら適時、精神分析をしてください。

## <目星>など、室内の探索をする場合

電子パットのような物体を見つけるが浮かんだ文字は探索者には読めない。文章は文が塊になっているが、離れた行に一文だけ付け加えられているようだ。しかし、横から先輩が読み上げ始める。

『この人間という生物はとても興味深い。何よりも特筆すべきは【感情】と呼ばれる揺らぎのある存在だ。これが、実験に良いスパイスを与えている。とくに人間が他の人間を好きになるという【恋】と呼ばれている行為は奥が深い。本体だけでなく、他にも影響を与えると確認できるからだ。たとえば、この【恋】という行為を人間以外の存在に向けたらどうなるのか？まずは姿かたちが似通っているモノから始めよう。 (以下略) 予想外だ。人間以外の存在が【恋】という感情を持ち始めたようだ。…って、うわぁ…』と自分自身が読めたことに動揺している。この時点で、彼女(彼)の事を含めて記憶をなくしているが、この部屋に入ったこと+文章を読んだことで連れ去られた記憶を取り戻しつつある。

なんで読めるのかと聞くと、逆に不思議そうな顔をしたのち真っ青になり『…なんで読めたんだ？』と聞き返してくる。そうしていると突然、室内が真っ赤に染まりアラームのような、しかしノイズ交じりで不快な音を発しはじめるので、先輩が『まずい！にげるぞ！』といいつつ探索者を外に引っ張り出す。そのまま廊下の奥を目指して走っていく。

→入室しない

突如、廊下を真っ赤なライトが照らし出す。ついでアラームのような、しかしノイズ交じりで不快な音が耳をつんざき、先輩が『まずい！にげるぞ！』といいつつ探索者と廊下の奥を目指して走っていく

## ●脱出

◇ 赤いライトの照らす廊下の奥を走り抜けていき、自動ドアのような扉をくぐった先には地上の見えないエスカレーターがある。先輩が『なんじゃこりゃ！？』と叫ぶか、同時に背後から銃声のような音が聞こえてくる。先輩が、『様子を見てくる、先に行け！』といってくる。

**先輩を置いて、先に行きますか？**と尋ねてください。

### 先輩を置いて先に行く

→ あなたは一目散に先の見えない闇を上がっていく、いや、恐らく上がっているのだろうが明かりもない、目的も見いだせない暗闇では、ただ闇雲に足を前に、上にと動かしているに過ぎなかった。

気が付くと貴方は、先輩の部屋の前にいた。ドアノブには鍵が刺さった状態。現状が理解できず、固まった貴方に扉越しから声が聞こえた。『あれ、来たんだ？』その声は確かに先輩のモノ、しかし微かに混じった羽音を、確かにあなたの耳は聞き取った。

**Bad** あなたは誰？(PCが生き残った場合はSAN報酬1D3)

先輩を置いていく+車両内で聞き耳成功のみは強制ルート

→ あなた（たち）は一目散に、先の見えない闇を上がっていく、いや、恐らく上がっているのだろうが明かりもない、目的も見いだせない暗闇では、ただ闇雲に足を前に、上にと動かしているに過ぎなかった。気が付くと貴方たちは、狭い押入れ（または地下収納）で仲良く目を覚ます。先に目を覚ましていたであろう先輩に揺り起こされた貴方は、先輩が吐いた大きなため息に肩の力を抜いた。『いや～、なんか夢のような…』と言いつつ、先に室内へ戻る。残った相手に、笑いながら手を差し伸べつつ言えば、と口を開く。『でもさ、〇〇（探索者の名前）。言った通り、ガンバッタよな』と、何とも言えない、破顔を向けてきた。

**Nomal**     どこから？（先輩ヒナルート）（※PCが生き残った場合は SAN 報酬 1 D3）

先輩と一緒にいく（振り返ったが室内は見えていない場合）

→ あなたたちは一目散に、先の見えない闇を上がっていく、いや、恐らく上がっているのだろうが明かりもない、目的も見いだせない暗闇では、ただ闇雲に足を前に、上にと動かしているに過ぎなかった。気が付くと貴方たちは、狭い押入れ（または地下収納）で仲良く目を覚ます。先に目を覚ましていたであろう先輩に揺り起こされた貴方は、先輩が吐いた大きなため息に肩の力を抜いた。『いや～、なんか夢のような…』と言いつつ、先に室内へ戻る。残った相手に、笑いながら手を差し伸べてきた先輩の表情に貴方はギョッ！とする。先輩は、泣いていたのだ。ぼろぼろと涙を流す表情は、自分が何をしているのか理解できないようで、しかし表情には悲痛が浮かんでいる。そして口を開く。『あれ…？なんか、大事なことを忘れていたような気がするの…』貴方が先ほどの事件の事を聞いても、先輩は全く覚えていない。もちろん、彼女の事も。それどころか貴方以外の誰もが、彼女がいたことを忘れていたのだ。

**Ture2**     すべてを忘れて（PCが生き残った場合は SAN 報酬 1 D6 + 2）

先輩と一緒に行く（振り返ったり、室内を見ていた場合）

→ あなたたちは一目散に、先の見えない闇を上がっていく、いや、恐らく上がっているのだろうが明かりもない、目的も見いだせない暗闇では、ただ闇雲に足を前に、上にと動かしているに過ぎなかった。気が付くと貴方たちは、狭い押入れ（または地下収納）で仲良く目を覚ます。先に目を覚ましていたであろう先輩に揺り起こされた貴方は、先輩が吐いた大きなため息に肩の力を抜いた。『いや～、なんか夢のような…』と言いつつ、先に室内へ戻る。残った相手に、笑いながら手を差し伸べてきた先輩の表情に貴方はギョッ！とする。先輩は、泣いていたのだ。ぼろぼろと涙を流す表情は、自分が何をしているのか理解できないようで、しかし表情には、どこかすっきりとしているようだった。貴方に差し出した手を、ケガをしていたであろう頭部にのぼす。そして口を開く。『俺、あの時、彼女をナンパしたことが一番のラッキーだったと思う。彼女が、ただ脳みそだけになるはずだった俺に〇〇（探索者の名前）を寄越してくれた。来てくれて、探してくれて、本当に…ありがとな』そうやって彼は貴方に笑いかける。彼の記憶を、思いを、守りきった貴方にむけて。

**Ture1**    すべてを守って（PC が生き残った場合は SAN 報酬 1 D 1 0 + 2）

分岐ルート

先輩を先に行かず、または一緒に残るという選択をした場合

→ 探索者の言葉に目を見開き、ぽかんとした表情を浮かばせる。しかし、ついで思いっきり吹き出した。顔に似合わない男らしい笑い方だが、その表情は吹っ切れたようであった。『お前ってやつは・・・たまには先輩らしい事、させてくれよ』と笑いかける。改めて、貴方をまっすぐみると『時間が無い、先に行け』と告げてくる。

※探索者のこれまでの選択次第で、KP 判断でエンドにつなげてください。

※車両内で聞き耳に成功していた場合は『お前はガンバレルよな？』と変えて、強制ルート（先輩ヒナルート）に変えたり、ご自由にどうぞ！

※探索者が振り返らなかった、入室しなかったという（消極的な）選択をした場合は **Bad**、**Nomal** といったルートに行く確率が高まります。その場合は先輩が彼女の手料理と一緒に摂取していた彼女（彼）の一部がヒナとして孵るか、たまに（先輩の）幸運を振らしてもいいかもしれません。

ヒナとして孵った後、または **BAD** の後は先輩を煮るなり焼くなりお好きにどうぞ！



## シナリオの背景

- ① ミ＝ゴとイス人が、ショゴスの切れ端など様々な神話生物の欠片を集めて、最近（1300年代）興味を持っている『人間に近い何か（※彼女（彼）の元型）』をつくる共同研究を始める。最初のうちは仲良くしていたものの、イス人からしたら知識欲を満たすほどのスピードで成長しない彼女（彼）をミ＝ゴに任せて放置する。
- ② ミ＝ゴ自身も数ある研究所の一つに放置していたがある時、面白い実験を思いつく。人間の定義とは何か、それは感情を持っている事ではないか。それでは人間を食べさせて、脳みそはミ＝ゴたちの実験道具（脳缶）に、残った肉袋を彼女（彼）に食べさせる。最初のうちはスライムの延長だったが、100年200年と年を重ねるごとに分裂をしたり、増えたり消えたりと優秀な1体に淘汰されていった。
- ③ そして現在、ミ＝ゴから命令されるままに人間と付き合い、捕え、脳缶にされた残りを食らい、また人になり替わることを繰り返していた今回の彼女（彼）に感情のような揺らぎが芽生えた。その揺らぎを学ぼううちに、自分は人に『恋をしているのでは』と気づく。同時にこれ以上、自分は好きになった人を『殺めたくない』という葛藤に苛まれる。
- ④ 時系列でいうと車掌さんをミ＝ゴの実験室に送った後、どん底気分だったときに先輩にナンパされる。こんな自分を好いてくれる人がいるのだと、まさしく恋愛中毒状態に。ミ＝ゴ達からどうにか逃げる方法を模索し出す。
- ⑤ 彼女（彼）は悩みに悩む、しかしその間に先輩の頭がパッカーンしそうになっている（頭にケガをしている原因）ことを脳缶たちから教えてもらう。初期の脳缶は、彼女（彼）に騙されているためマイナスの感情ばかり抱いているが、感情を持ち初め、心のようなものを通わせられたと考えている最近の脳缶勢は彼女（彼）の味方であったという設定。自身のHPMPを代償に気絶した相手に変身する呪文を会得する（※ドッペルゲンガーのモチーフ）
- ⑥ 脳缶たちも自身をゴーストに変えて手助けをしたり、亡くなったばかりの車掌さんに関しては『自分は恋に生きるぜッ！！』とばかりに生前と同じ職場、電車、運転席で恋敵（先輩）が異界から現実世界に帰れるよう、道を作る。（ノックダウンの車掌さん2回目の神隠し）彼女は研究室から電車に乗って逃げ出し、現実世界と異界の狭間で、手紙を送った探索者が自発的に、自分に話しかけるのを待っていた。（話しかけられる。＝異界の存在である自分を、現実世界の探索者が認める。受け入れるというモチーフ）
- ⑦ 探索者が異界である研究所を通り、願わくば自身の存在を覚えていてくれるよう祈って最後はミ＝ゴの追っ手を撒くために奮闘した、という設定。ただし、途中でイス人が気づいてしまう（※彼女（彼）のヒナが孵る）ことによって先輩の精神が何者かに交換されてしまう可能性が残っていた、という流れ。

長々とお疲れ様でした！

キャラクター説明（1P目に書いたチラ裏の続きです）

探索者：今回の被害者1。後輩枠。先輩の家族以外で、最後にあった人という認識のせいで今回の救出劇の主役に選ばれた。彼女/彼からしたら、『巻き込んで申し訳ない』という気持ちと『私の知らない先輩を知ってる人だ、お話ししたいな（ティーン思考）』と思っている対象。KPする側としては、このシナリオは積極的に情報を集めていくタイプだと良いエンドに行きやすいです。

先輩：今回の被害者2。だが、半分はナンパした自分のせい。

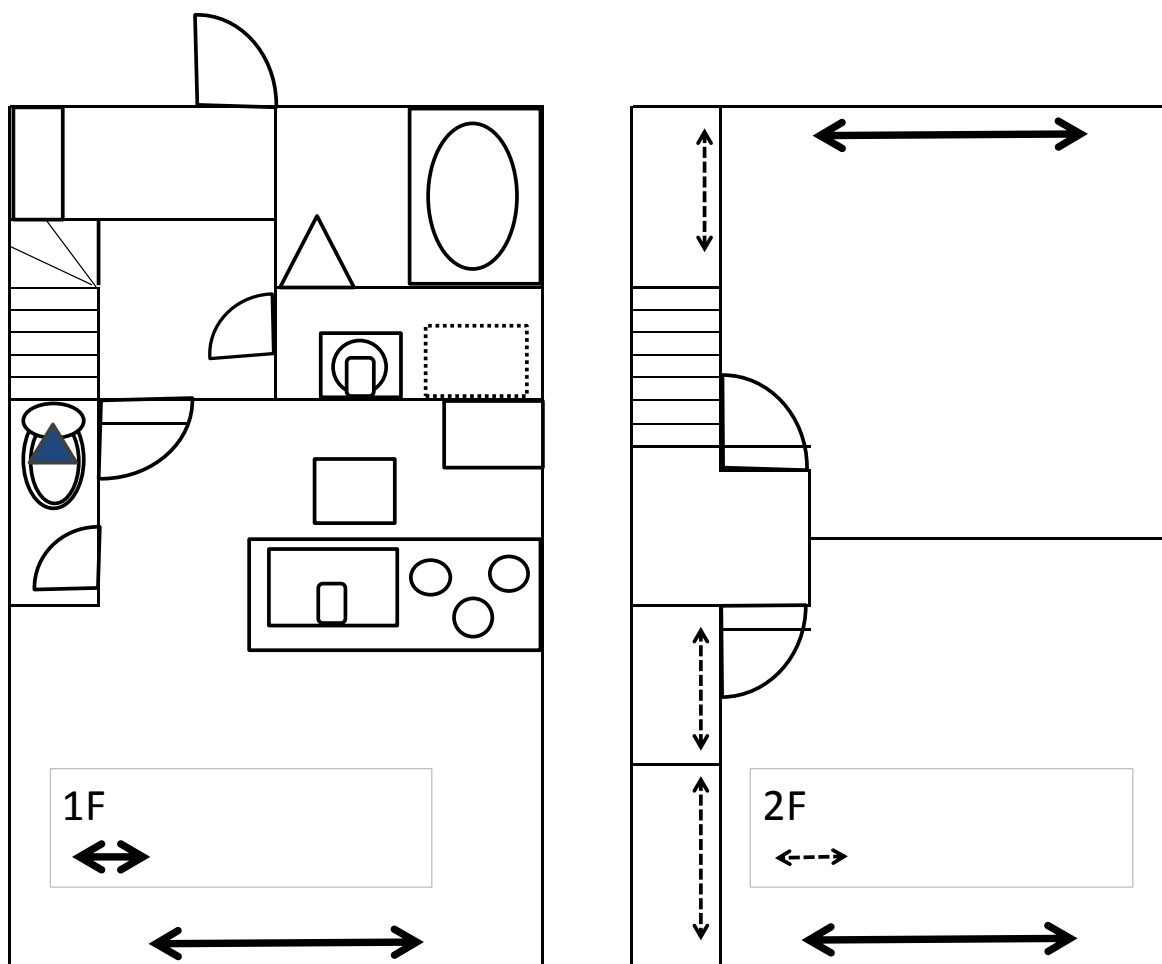
Trueで生還した場合、探索者に頭が上がらないであろうボンボンの三番目。お家柄にうるさい親族から『ナンパした相手と同棲なんて許せん！！』と勘当されたものの、『ふーんだ！ならいいもんね！』と駆け落ち同然で逃げ出したという裏設定。本業ではシナプスについて研究していたため、彼女（彼）の口下手も一緒に勉強すればすこしずつ良くなるのでは、とあいうえお練習帳を買ってきた。インスタントすら作ったことない家事能力のなさだが頭と性格だけは良いのが取り柄。キャラシを作っていた際、ダイスの女神様に微笑まれたNPC。

→<http://charasheet.vampire-blood.net/m48ced50a496c7fe553476378649d6ce4>（NPC例）

彼女（彼）：KPまたはPLが先輩の性別を変更した際に、同じく変更可能。お好きな恋愛模様にしてください。人を食らって、その人に成り変わり社会に溶け込むことが出来る。ただし、記憶はミ=ゴの技術により引き継げるものの話す、書く、といった学習行動は伴わない為、人が変わったようにコミュニケーション能力が劣化する。その為、孤独な人を選んで付け込んでいた。今までインドア派の人たちといることが多かったため、ナンパによってであった財力も手段も持った先輩が様々な世界を見せて回ったおかげ（国内外旅行や勉強など）で、現在の精神年齢は高校生くらい。先輩の年齢によっては犯罪です。先輩の生活能力のなさのせいで、どんどんカカア殿下になっていたが二人とも上手く回っていた模様。マンションも彼女（彼）が選んだ（というよりも元々、ミ=ゴにより用意されていた場所のため、このマンション、この部屋を選ぶように誘導した）が、しばらくは何事もなく同棲できる予定だったので張り切って（先輩のお金で）全面リフォームした模様。

ミ=ゴ：彼女（彼）の保護者。ナンパされた相手と同棲なんて早すぎるんじゃないか・・・と思っていたかは不明だが、与えたマンションに時折、自宅訪問していた。（※そのせいで先輩は訳アリ物件を買ったのかと思って一人怖がっていた）。

先輩を連れて、逃げ出した彼女（彼）を追っていたが、エンドによっては人間になろうとした実験動物の執念に負けた模様。



304号室のマンション地図になります。